

Kodak
LICENSED PRODUCT

© The Tiffen Company, 2000

KODAK Color Control Patches

Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

替理善運

天明八年
牙磨画

完

13
1963
54





序
 田つちのの麻あし持もち夏なつのの松まつのの松まつのの
 海うみもも美みれれままくくつつやや一ひとままののハ
 坂さか草くさははもも丸まる秘ひんんほほろろ実みたたよよ
 川かわ舟ふねままよよももああややかかよよええ



か^がら^られ^れて^て天^{てん}運^{うん}は^はみ^みと^と心^{こころ}
買^かひ^ひ似^に埒^らう^うか^か美^みら^ら次^{つぎ}地^ち物^{もの}
と^と物^{もの}れ^れあ^あら^らか^かあ^ある^る元^{もと}
と^と中^{なか}の^のも^もの^のれ^れあ^ある^る
あ^あら^らも^もあ^あら^らむ^むふ^ふか^か
ほ^ほも^もあ^あら^らむ^むあ^あら^らむ^むあ^あら^らむ^む

ま^まを^をあ^あら^らむ^むあ^あら^らむ^む
ぬ^ぬも^もあ^あら^らむ^むあ^あら^らむ^む
し^しと^とあ^あら^らむ^むあ^あら^らむ^む
の^のあ^あら^らむ^むあ^あら^らむ^む
あ^あら^らむ^むあ^あら^らむ^む
あ^あら^らむ^むあ^あら^らむ^む

やうし今いまの志こころれをどやまの志
そ次時代じだい替かれぬか
とは晒あ落お本ほんの題だいを
あつりせんせんと記ませしや一いつ句
不通ふつう性せい小冊せうさくまゝく毎まい月げつ
せざる紙かみ化けゆへく何なにも

了りょうはてことと志こころるま
評ひやう判はんハ千里せんり七しち条じょうあるとて案あん
巻まき法ぽうはつと二に紀きの春はる

山さん祿ろく特とく満まん述じゆつ



意氣真人寫



振頭發音聲
低頭催涕泗

○ 振頭と音聲 おんしやう 低頭 おんしやう 催涕泗 おんしやう

かゝらの おんしやう 通人 おんしやう と おんしやう して おんしやう する おんしやう 故 おんしやう あり おんしやう とも おんしやう 後 おんしやう び

○ 低頭 おんしやう 催涕泗 おんしやう と おんしやう する おんしやう 故 おんしやう あり おんしやう とも おんしやう 後 おんしやう び

男の おんしやう 徳 おんしやう へ おんしやう して おんしやう ぬ おんしやう へ おんしやう する おんしやう 故 おんしやう あり おんしやう とも おんしやう 後 おんしやう び

一向不通替善運

井中此種の大油瓜志うと云ふはなれか
地物を通者ハ物ナク所と大なる世帯と云
は傾圮の廣大なる事を志うはと略
まてさる勢はさうして此下種ハ仕を
乃雲坂瓜志うか一月並と纏りよる
居て而後鼻乃下ハ茶とらんの裕

と何うしとせぬ^{なん} 妻^{つま} 大^{おほ}王^{おう}の 性^{さが}をんを 迷^{まよ}
 しやうをん^{しやうをん}の 身^みを 同^{どう}心^{しん}志^しの び茶^{ちや}をん
 のかぐ鼻^{はな} 爪^{つめ} たるくく^{たるくく}乃^なも 喜^{あは}ひを
 し^しは 二^{ふた}卷^{まき}と お^おが^が人^{ひと}と 連^{つら}月^{げつ}は 今^{いま}乃^なあ
 派^は生^{せい}の 紙^し 雛^{ひな}の^のく^く赤^{あか}毛^{もう} 纏^{まと}ふ^ふ産^うし
 てか^てう^うは 一^{ひと}節^{ふし}ふ^ふ志^しく^くの^のう^うせん^{せん}ふ^ふあ^あな
 へ^へう^うの^のも^もお^おの^のま^まが^がと^と死^しん^んく^くさ^さぬ^ぬの^のま^ま
 中^{ちゆう}も^も松^{しょう}古^こ和^わ乃^の門^{もん}牙^がは^はい^いく^くふ^ふあ^あと

又も瓜あし程どした年の号瓜あん
とどけに百歩一町の富乃れわたりをり色
もせまうしねむりの世果よみとくひ命
聖まうくうさね色りのひもねえふし
長町ふいそそのはを祭祭年甲さ
浪死といふる毎るむ乃地よ西國橋と
取つ橋やり世色のめ死るふいさみく乃
紫橋の海さうれ急瓜写竹ぶし

のうゝ宇治乃哥人とぞれし一茶撰
もひめく茶屋のをひ燈とありし
もほふ孔も時ふあざりもひかたり
もはたの石うりしひおやら乃公
とあまをうりあふかりしはたせし
周も月松もさうり提灯の星おとく
口上のうりしあふ富橋那の舟はさひ
てもさうあとのがあひ乃糸の竹田道江

うはりりでも金おまうりる田素なりし
とふととなりし是のふ金乃なる
本もあつたりし襦つくえ玉子と焼ハ
口角か屋見世天鼓羅胡麻揚の白
もとり女丁稚のうりしと連かおとこれ
一帯もはの口上はりしあ生掬り
龜山を名おとくは戸人抱も足とさ
先腰乃中あひかしく髪結雨ん

ざうくあゝありのいんや因てん中
 でなく氣くかく中海心ふさうを
 うづらぬ思道むた不れひりに氣
 とあふんれむゆんざうのさけたあ
 きびとく思業は二事成めんぐさ
 さだのまらあけい志くああまどと
 おひ侍ふけぬ國橋とつる和ら目
 平橋の方一武二町とるさうまくと長町

の彩乃ふ巻米屋と住立屋に踏次口
 前が三膳とおれをうけく音曲と笑と
 とあうの誓古所わりの此之揚が肉ハ踏次
 けらつとけさあわりと入京ハ踏次
 と打さあられ揚子丸丸抱若若何
 の終もあふうと墨入ふ何う家とてい
 を迎若うてああなりあうも今いれ
 めとととじとをゆくと父母の若若あ

といふの一向ありのそ我望らんでそ
 一とらゆえて親むひむらえんおど
 きんととびまよひるも兄えんと唱も
 世の思ふしひぞう一世祝仁の商賣と
 此とらむ骨伝とてくわさるる
 傘のしほりいふて
 左の壁に書出と書紙後てよりまをりて
 長法師の経冊に二枚ありしをよむと
 此は浄土の表徳女月のお
 啓花・廻車・おやを・おらよ
 と書志すしとらむ

杖のり行ふを列徒の細るは首
 ありがしをそ例のかけ傘と後さか
 の福まじ帯とお糸の付しじのも
 物とまよひるを種袋とてとらるる
 徳さんふりしとてお袋も者かわけら
 して世掛がふむくくくくく
 二階ぐ傘の破伝とてくわさるる

板いの男ま成せい雑ざつ中ちゆうでああららくくわわららぬぬ人ひと身みららと

ををととわわららぬぬ子こ伏ふ知ちげげひひふふみみるる おまおまおまおま

おおととさんさん伊い作さく匠しゆうさんさん久く お袋お袋今いま久くのの終しゆうぎぎ

ろろろろろろららららととままららか 三人アイアイトト是は何なにとともももも

ををままくくええううのの お音おおままさんさんわわんんか お松おおととさんさん

ををままくくよよふふががるる余あまとと多たううののそそららととああままてて おユラおおととさんさんとと

くくふふととししひひのの縁ゆかり おじアイアイけけーーくくぬぬささししひひのの目めどど

よよアアノノままららららららととままららりりととヤヤアア おま常じょうでで子こたたとと

かか免めん紙しここままととままよよららととよよくく出で来来たたままよ

お松アイアイ ままららもも見みままししまま アリアああいいが

おおととさんさんとと おしアアリリアア子こ かかしし屋やのの若わかききさんさんとと子

次つぎ郎らうととんんとと二に人にんリリででここせせししまま お袋ママララお

浦うらさんさんららららととおおととせせ おまおまおまおま

おおととさんさんおおははらららら成せいねねととああままののモモウウ おおいいののか

とと入いららううららりりののああままののアアリリ お松アイアイ今いまらられれたたああまま

よよ おじエエ わわのの颯さつととしし お松アアまま

ちやアそののありあはれがどうもひん
少くひヨ持てまじりうゝものがあるよ
鴛鴦のゆがわく移るが子トシ柳子トシおたのま
はれを移しく引あくる おき ユウ ウ ウ ウ ウ
さうぞよえんが子にどりいれりうゝわく
といふが子とくちを全柳子トシはうが
あくひヨおさうらん持て人形浄瑠璃とお
ああり おき イ ハ 今 を そ ふ ま れ あ こ い ら を

おりの移ひのんがある様 おき ア 我 新 出 た れ
おれ おき ア 今 を そ ふ ま れ あ こ い ら を
そくしてついでに章女へんごうよあんな
男と女をまふりらん おき ア 今 を そ ふ ま れ あ こ い ら を
おき ア 今 を そ ふ ま れ あ こ い ら を
く女子のふりこくかめのおり おき ア 今 を そ ふ ま れ あ こ い ら を
おれ おき ア 今 を そ ふ ま れ あ こ い ら を
おれ おき ア 今 を そ ふ ま れ あ こ い ら を

トヤア後人よしの世におもくつらうがことし後人
て お袋 はまならやうくもいふぞちうとア

まろししてわらびくふ こおらぬつひあがりきう とし
さんでまをふたけす

と後おくわうどお三勝はくるとんね おさんぞらわ
のまねの事

とるもちもたのびううまのりいもあまきたりのまねたふくの
あまゆいあまのめんごはまいこせんのことこのあまこせん
でまいこせん 三浦ム、 てうしん
もんあがおもち心のたういへる

ハ中 こわいあまこせんであらてくわがりたなご
二にぶくのまごうこせんのでしとあをそ
三らサア おい 白ト 新上るるをれあは

とり物くくあわりの汁箱のよふるをじ

ておれくすふりくめ 三痛 だてはあ

へねえただごころのまきこしやあまい

そひいふらうり強ていづはら親のま

あまねらぬがならひ あまこのまのま あまこ

あましく幸物名酒盛色汁中波 とんこ

かーりくここをんもこうゆねの式人 あまこ
真長く一あまよ あまこ 安ん あまこ 時 あまこ と あまこ け あまこ け

くもきずし 三十八 川口通えん 四十九 時どく

三十八 三 せんが 三十九 系 四十 系 四十一 系 四十二 系 四十三 系 四十四 系

母酒全 四十五 磯 四十六 代 四十七 井 四十八 四十九 五十

かさんおま 五十一 づ 五十二 づ 五十三 づ 五十四 づ 五十五 づ

お 五十六 づ 五十七 づ 五十八 づ 五十九 づ 六十 づ

えの 六十一 づ 六十二 づ 六十三 づ 六十四 づ 六十五 づ

お 六十六 づ 六十七 づ 六十八 づ 六十九 づ 七十 づ

て 七十一 づ 七十二 づ 七十三 づ 七十四 づ 七十五 づ

三 七十六 づ 七十七 づ 七十八 づ 七十九 づ 八十 づ

て 八十一 づ 八十二 づ 八十三 づ 八十四 づ 八十五 づ

い 八十六 づ 八十七 づ 八十八 づ 八十九 づ 九十 づ

門 九十一 づ 九十二 づ 九十三 づ 九十四 づ 九十五 づ

わ 九十六 づ 九十七 づ 九十八 づ 九十九 づ 一百 づ

新 一百〇一 づ 一百〇二 づ 一百〇三 づ 一百〇四 づ 一百〇五 づ

お 一百〇六 づ 一百〇七 づ 一百〇八 づ 一百〇九 づ 一百一十 づ

そんねりびてさうりひのて
くそとてはゆくりおしぬひきう
とわらもて志すし親仁も二ふよるそ
て皇飯もやうくとせと人まうれの本後屋
乃ち代業めうふま梅信りらむらん
入をそてふ志かりれもねづひともある
[案] おろんて人ぶ物さで病の猶も成めて
く病ふ見んがさうしておれれさうねる
[三] かりうく移入業えりうく志すふさん

かせんなしとら志やア録と
つら [三] いあすしぬるのやか目いれ志
おれり
と志すしひのふさうてかあるゆそく
と業助の志すし二傷の志してぬるふ
ハ向來喜ぶついでんのもまにの
今ひくりの向字水進表徳と統る世
脚とあふさ [案] イヤひあひさふゆる
まひヤ業えんそつら [案] おと成くの子

とまかく けしき無通志のころ舟をたかぬれどはびらとさく
よめがら てよりのとこころう人のとこころいんごうてもう

通志 栄えんおめひ中ささかうでころけら

けりのかアさくさかとも **業** 子 **業** 子
アリや 業

斜 **業** のさくめさ これ八月とふあにさうひとさ
ありこれ九月一とさうひとさ

りて一版づかろうさうのりさうとあれ **業** 子 **業** 子
お師匠 **業** 子

さ町のだれさうさ **業** 子 **業** 子 **業** 子
さうさ **業** 子 **業** 子 **業** 子

さうさ **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子
さうさ **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子

さ **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子
さ **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子

月 **業** のさくめさ **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子
さ **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子

い **業** のさくめさ **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子
さ **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子

さ **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子
さ **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子

さ **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子
さ **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子

さ **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子
さ **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子

さ **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子
さ **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子

さ **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子
さ **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子

さ **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子
さ **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子 **業** 子



いんげん

とれのおしぬあしくわらうとさる 業

ぢふとんら何 ちやるゆりけと 三掃 アハハハ とさる

かろあ(業)が油がわすりきひ 小僧 モシ ゆいけいそとをたけてゆひま けしとさる

業女さんおやうえんと のぞくこれと 業 うん

のかくおの上でとちやをわらう おして 表へゆく

コ安やわさこにわさといふかよ 小僧 アイさくとも 業女はる

いあつが城をけしゆいふさうもえさ業女がわらうとれは
たかをさるへしゆいふさういふよりわらうとちや業女はゆい
のさゆんとさるゆいせられたながれ月日のうちまいつととさる
ねいゆいぬのこまゆいせられたゆいさういふゆいさうとちやわらうとちや

業女いふる城をわらうとちや ねいゆいぬのこま 業女はる

かえるとさると せつと 聖徳太子のち代文治 ゆいゆい 聖徳を

吳光 いんこう 倭をたふさる てまとう 勅次二人は ゆいゆい 是で

あり 勅 イヤ ちや 三掃 ヤ 純さんおん

どこのさる がすい ちや 勅 アハハハ ちや

ア福(おん)この病 がすい 氣 ふん さん ふん ちや 三掃 アハハハ

ちや ゆい ちや 勅 イヤ ちや 三掃 アハハハ

とちや ゆい ちや 三掃 アハハハ ちや 三掃 アハハハ

田糸りこひつりぬ 三陽 通志えんかんを

おどろ後へ 世 まさねが終よけみいごうを

修終ごうとしてなしくぬきまうぬ 五 史

でも先 せん 以 せつ 節 せつ 句 く を わ づ も づ の 何 なん せん 世

詠 うた 事 こと と い へ む 文 ぶん 公 こう 抄 しょう こと な 派 はい お と ころ う ち

ら 矣 公 こう 乃 の ん ん を ね ぞ う ち り 世 サ ア 能 が 事 の

つく 来 こと し り く ば 終 こと お ぞ り や 事 命 めい

ふ そ こと し の み 中 ちゆう の 音 なる り して 終 や り した な

け い ひと ど や り ね ん 後 ご の い 終 しゆう 人 にん お ぞ り ご ころ う

いつ そ も 文 公 こう 志 し よ せん 終 しゆう 人 にん だ ぞ ぞ 世

正 せい 定 てい 終 しゆう 人 にん の い 夏 なつ なる り 来 き 終 しゆう 人 にん こと を

屋 い や ア 終 しゆう 人 にん こと を ち ん 事 じ の 終 出 しゅつ

来 き ごと い 終 しゆう 人 にん こと を ち ん 事 じ の 終 出 しゅつ

り ん て 来 こと し り く ば 終 人 にん 世 南 なん 工 こう

か こ ま り 神 かみ こと 世 南 なん 工 こう が あ る せ こと を ぬ

角 かく の 終 勢 せい を い り く ち あ り く して う け け 終 しゆう 人 にん

今からして...
若妻の伊勢屋...
いそ...
中...
さ...
と出てゆく
も久し...
火...
ひ...

さけ...
ト...
その...
英...
や...
で...
て...
お...
た...

けく通院へといふはゆく 後ア是ハ由縁

でんふわつごまの海へこそ そこのそびれんと
けつちのそれよりこそ

神り 矣 かんと春をいつふ 燈 サより修うかん

でもけ待らねんへつは心ごとおひてまのの

ふ志をり 矣 サア子ヨ 燈 上テ 矣 十 燈 十

テ 矣 上ヨ 燈 上ヨ 燈 上ヨ 燈 上ヨ

はふのんご トちやえんの海 燈 コ世ごらみあをてこ

やれた侍の奉と志つてわらう 三 播ウレヤ 燈

のりんごら志てをねん 燈 言てく 燈 言てく

うらぐしびらねん 燈 言てく 燈 言てく

世を接し人 燈 言てく 燈 言てく

あらぐ大仏よ 燈 言てく 燈 言てく

あむらうね 燈 言てく 燈 言てく

後が細工人ヨ 燈 言てく 燈 言てく

たごらつとえん 燈 言てく 燈 言てく

た侍とさく人 燈 言てく 燈 言てく



阿のりありし如出入よ通志らぐひサらん
 うまうし秘入とふれ人 世 通志らぐひサらん
 だうう多うの身 世 ありそをき勤
 公喜のまろー 勤 イヤありやアは以さん
 酒 世 響エさんーもしすさきうぬまん酒
 さんの字はらうひさもとかくと家 トニナク
 大まうひすくともや日まら化ぐ 世 通
 志の友人のあひメ 世 響エさんーくく 世 通志

イヤ多いありはふ長あをびと二人 世 ぼれで
 帰 世 響エさんー 世 響エさんー 世 響エさんー
 が 世 響エさんー 世 響エさんー 世 響エさんー
 ま 世 響エさんー 世 響エさんー 世 響エさんー
 あり 世 響エさんー 世 響エさんー 世 響エさんー
 又 世 響エさんー 世 響エさんー 世 響エさんー
 勤 世 響エさんー 世 響エさんー 世 響エさんー
 志 世 響エさんー 世 響エさんー 世 響エさんー

サア おとね人十目がくさるるか [英] ふぞんやう

サア 争ふおとね人をけしめ殺してらん福人

[三] サアト 三味線をついぢりどかる [英] 英光かき

アまけお [英] 少くやうやと後り合さけ

の情れ [英] 花やうして下さんせおの

く [三] トくりえし [三] 三管なんぢり [三] ア、さむいトそ

るの掛竿 [英] 本線さう紗の袖 [英] 細い

とよよ [英] けくさのあかて 天窓もさる男

小ころの [英] 文おぐり [英] 文け

びん [英] 消の [英] 吹おと

美光の [英] 見お申う [英] 小ころやうにしてそのと

三ころが [英] 文おぐり [英] アサト [英] 文ひ申うーに

美光の [英] 文おぐり [英] 三勝の [英] 文おぐり

とつ [英] 文おぐり [英] 文おぐりと [英] 文おぐりと

ま [英] 文おぐりの [英] 文おぐり [英] 文おぐり

と [三] [英] [英] [英] [英] [英]

ぬんよりよるきかちりぬすらばたまふまじとせしるさまの
 こころをそがぬとらそなたまらひでとせしぬすらばたまふまじとせし
 たるまら 福ゆく目とくぬすらばたまふまじとせしぬすらばたまふまじとせし
 りのまり 完ごうけかゆたどぬすらばたまふまじとせしぬすらばたまふまじとせし
 けつはつたてぬすらばたまふまじとせしぬすらばたまふまじとせし
 つらぬまらまてせしとせしぬすらばたまふまじとせしぬすらばたまふまじとせし
 こころをそがぬとらそなたまらひでとせしぬすらばたまふまじとせし
 梁おむすこせしとせしぬすらばたまふまじとせしぬすらばたまふまじとせし
 中の丁うしぬすらばたまふまじとせしぬすらばたまふまじとせしぬすらばたまふまじとせし
 こころの世はたぬすらばたまふまじとせしぬすらばたまふまじとせし
但一けしぬすらばたまふまじとせしぬすらばたまふまじとせしぬすらばたまふまじとせし

通のよくあるはせしとせしぬすらばたまふまじとせしぬすらばたまふまじとせしぬすらばたまふまじとせし
 とらぬまらひでとせしぬすらばたまふまじとせしぬすらばたまふまじとせしぬすらばたまふまじとせし

遊んで遊んでぬすらばたまふまじとせしぬすらばたまふまじとせしぬすらばたまふまじとせしぬすらばたまふまじとせし
七四

小六のうんおをえんとおひーもなちまら思
 のうくおふも習り中と死か人そらもあす
 か門と窓あなれた浮世おつとく書七を
 もりんあやうり
 本籍を織とのりまらふ深きゆ級和ハ
 ありく草紙けめつあ徳事おらるるに
 神とふめとりふとく物とておとくお
 常成貝の口あめあ浅黄のふ紙とあこ
 まうけく姫路革忠三度なを腰よつあ

朱ねりの皮鼻緒おねりお足紙を死
 蛇の目お傘紙さして小さな物と推灯り
 薙ぐ豊とつら字を付とれとかこもお
 物とつらあまら紙紙とつらとつら八重
 履の上福理巾紙入るおとあつひのじ
 乃甲又紙がめずらりがりくあつて
 小七がけ身ぐらふもせうん二捕が身乃わゆつておまこお
 ありいらおとつておそがめて大方女とく幸之子五あくおご
 鼻うく成明ひなぐらふは踏次おつて

かしくみ成すむくくもつらむにせじよ悔く
 わら赤丈志志つらむと結ぶ大なる水やえ
 山をゆりつけし結く信成へあもこむ 大
 花と花をよそてまふむいりんぐと
 いふいひあましひ畜生ととろふ成欠
 る心も結ぶ志志がガタととく 三膳の内持件
 さふへお燈明をよそてわたりしがこもととそ
三膳 中さん又おつつけしとそめ 半 いふま

おん成とらだくもあしととざうとそん
 てふひてよくわがりてうらんと吹消そ
ま コ おろさん世中へおろすどけと提灯成
 へー コウ わつらうしげらうお出入り
 く中あるとととと影くおれら死に
 お持仁さまお燈明がとそ 三膳 かのさん
 何げが後さうと 三膳 さんなうとそん
 こらうと油成るおおゆくらへおそ 半

少半七と三勝とあ人のありくたぬぬ
 りんごらんわがなんでも一物ありとらん
 けいしとあつらん是とんとそつらむい
 ざう娘といらんゆけんも志のぬでたなけれ
 ども半七の秘言を秘伝の秘伝してい
 儀をも志中うちぐらも中後山あひづら
 ろとるゆげむとあゆみおかしんま後をぶるゆ
 小五げんはうきあすねとらん大后あ有り

海と小男女を急とあ人のくくなま
 どんなうとあ女でも好とらんとらん男
 がひらりとあつらんひな^三けちうあめ
 とあの人見らん十八半七とあゆめあつらんひの月より月あ
とまはなふのあつらんあつらんあつらん
^三あつらんあつらんあつらんあつらんあつらん
^三あつらんあつらんあつらんあつらんあつらん
 とあつらんあつらんあつらんあつらんあつらん
 さまあつらんあつらんあつらんあつらんあつらん
 さまあつらんあつらんあつらんあつらんあつらん
 さまあつらんあつらんあつらんあつらんあつらん

よー 一こゝろハ膝ヲやうふ九平ハむゑんなり [本] おうさんおめえ

アノ アノハばと男ふまりの球ころがれぬ 何ういけがてださじやア こわい 福入 こわい

[本] コト 馬道 コト 丹うあさん コト の返おれ コト のりんご

そおれ コト のまけ コト のけ コト のま コト のま コト のま コト のま コト のま

く コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ

ね コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ

こ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ

や コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ

お コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ

か コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ

も コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ

く コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ

[本] コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ

お コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ

は コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ

み コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ コト のあ

なるとはあまのねがはけりし袂るさのふりんとせ
たふさうすりとあまのゆえの苦勞を
おのころし肩ふれあててもあやらしとあふくろハ
まごいといれくとわれと 三 あまそれかま
つさういあふれりしやア嬢しひとあふれど
涙をそりしきま七がむ糸抱はくとま七と
そはのね燈の灯あふると吹けをむやりに
あふれあふれりとつれはくとお袋の足おと

が燈火(まごい)とこ人のそれとま七とひり
くりたふれとびのそ後次乃板のま 三 ホ
いそ通町のあふれと糸のま 三 ホ

甘露庵山跡蜂湍夢中戲作

并書画

天
明八申歲正月吉日

馬喰町

江崎屋物出傳坂

廿六

七



